

月形町 議会だより

No.
40
2025. 5. 7



お母さんといっしょに（「まんまる広場」3月25日、9ページに「運動教室」を含めてほかの写真があります）

令和7年第1回定例会	2
活動経過報告	2
予算特別委員会	3
一般質問	7
町内スナップ 月形の子どもたち	9
今年は団体との懇談会を開催しました	11
舞い降りて月形	12



令和7年 第1回定例会

第1回定例会は、3月4日から18日までの15日間にわたり開催されました。初日の4日には、14件の議案について審議が行われ、すべて可決されました。その後、令和7年度の町政および教育行政執行方針が示され、令和7年度各会計予算と関連議案が予算特別委員会(金子廣司委員長)へ付託されました。13日には、3名の議員による3項目の一般質問が、14日から17日までの間には予算特別委員会で審議が行われました。18日に令和7年度予算に関する全9件は原案どおり可決され、さらに発議2件、意見案1件、会議案2件についても審議が行われ、すべて可決・承認されました。

審議内容 質疑応答

(一部抜粋)

令和6年度一般会計

■ホームページ更新事業

問 ホームページ更新事業が減額されているが、中止されたのか。
(滝口)

答 令和5年度は、スマートフォン対応や、AI技術、ICT技術、AIチャットボットが国の補助対象だったが、令和6年度には国の補助対象はAIチャットボットのみになったため減額された。
(企画振興課長)

■地方交付税の増額

問 1億4500万円増額の理由は。
(滝口)

答 物価高騰分や賃金報酬の増加分も加味された交付決定額である。
(副町長)

■コロナワクチンの接種

問 コロナワクチンの接種する希望者が減っている理由は。
(我妻)

答 推測であるが、副反応が多いのと、コロナに感染しても、あまり重篤でない方が増えてきたため。
(保健福祉課長)

■住宅管理費の あんしん住宅

問 危険家屋の除去が483万円減額されるが、危険家屋の件数は把握しているか。
(我妻)

答 令和6年12月末の時点で、町内の空き家は133件で危険家屋は把握していない。
(総務課長)

令和6年度

国民健康保険事業 特別会計

■特定健康診査受診率 向上支援等共同事業

問 重症化を予防する通院者対策の事業費が減になった理由は。
(我妻)

答 対象者に対する電話勧奨や、重症化予防事業については、国の財源が見込めなく、実施しなかった。(住民課長)

令和6年度

町立病院事業会計

■時間外勤務手当の減額

問 時間外勤務手当の減額の理由は。
(東出)

答 令和5年度までは新型コロナウイルス感染症の対応で作業が多かったが、6年度は5類になり、時間外勤務手当が減少した。
(病院事務長)

活動経過報告

3月4日 令和7年第1回定例会

6日 議会運営委員会

6日 全員協議会

13日 令和7年第1回定例会

14日 令和7年度予算特別委員会

17日 令和7年度予算特別委員会

18日 令和7年第1回定例会

27日 令和7年第2回定例会

4月4日 広報特別委員会

14日 広報特別委員会

21日 令和7年第2回臨時会

25日 全員協議会

太字：基本全員参加
議長の単独会務については省略

このほか、監査、月新水道企業団、空知教育センター、岩見沢地区消防事務組合など、それぞれの議会などへ随時担当議員が参加・派遣され、活動を行っています。

質疑要約

予算審査

Q & A

予算特別委員長 金子 廣司 議長を除く7名で構成

町立病院事業会計	一般会計	国民健康保険事業特別会計
月形町立病院事業会計	一般会計	後期高齢者医療特別会計
介護保険事業特別会計	一般会計	農業集落排水事業会計

一般会計 歳出

IP電話の廃止

Q スマートフォンを持たない高齢者への町からの情報提供の方法は。(東出)

A 今までどおりの広報紙等による情報発信と、緊急時においては社協や町内会等の見守りを推進する。(総務課長)

Q まだスマートフォンを手に入れていない世帯は、どのくらいあるのか。(我妻)

A まだ把握はしていないが、情報空白地帯はないように支援を続ける。(総務課長補佐)

防災

Q 備蓄品について、子ども用のおむつ、大人用の尿取りパッド、生理用品などの数量は。(西山)

A 避難者数などの想定をもとに備蓄しているが、大人用おむつは想定が難しく、最低限の備蓄にしている。(総務課長補佐)

生理用品： 昼用300枚、夜用150枚
子ども用おむつ：新生児用150枚、Lサイズ176枚、ビッグ152枚
大人用おむつ：M\L102枚、L\L90枚
尿取りパッド：180枚

Q IP廃止後は、高齢者や障がい者等の個別避難計画の策定が必要ではないか。(我妻)

A 個別避難計画ではないが、秋田県鹿市の避難計画が研修で紹介された好事例であり、保健福祉課や社協の協力のもと、作成していきたい。(総務課長補佐)

保養センター

Q はな工房周辺の駐車場整備や源泉棟建て替え工事について、令和6年度までの保養センター整備と一緒

にできなかったのか。(西山)

A 駐車場の道の駅の開業後の予想以上の混雑により、整備が必要と判断した。温泉の源泉棟については、温泉の再開後の湯量などが定まってからの整備ということで、1年遅れとした。(企画振興課参事)

Q 源泉ポンプについて は、従来の説明で今のところ入れ替えの必要はないとのことであったが。(滝口)

A 今回の源泉棟の改修では、源泉ポンプを除く工事となる。(企画振興課参事)

Q 保養センターの管理に 関して、外部からの人材に頼るばかりでなく、月形町振興公社内部の人材を育てるといふ考えは。(若井)

A 令和7年度からの地域プロジェクトマネージャ12名は、経営改善のほかに社員教育の任務もある。新規採用の社員も含めてしっかりと育成していく。(企画振興課参事)

移住定住ほか

Q 移住定住推進事業とは。(滝口)

A 認定こども園に、多様な性のある保育教育に結びつくようダイバーシティインスタラクターを配置したり、移住のためのコーディネートといった住宅借り上げやアドバイザーのための事業である。(企画振興課長)

Q コメの不足感が漂う昨今、令和7年度ふるさと納税における返礼品のコメの量は確保されているのか。(滝口)

A 寄付額を約3億7千万円と見込んだうえで打ち合わせして、先行予約分として約100トン確保している。(企画振興課長)

Q みかづき商品券発行事業の事務手数料について、昨年度の予算委員会においてその負担を検討するとなっていたが。(我妻)

A 商工関係の代表者との会議で、負担率が1%で済んだので増減なしとなった。(企画振興課長)

Q ふるさと活性化事業が前年度の800万円から600万円に減額された理由は。(我妻)

A 事業の中のふるさと特産品開発を6件から4件にしたことによる。この事業は令和7年度が3か年の最終年となる。(企画振興課長)

定額ハイヤー、バス

Q 定額ハイヤーについて、その制度、手続きについて個別に説明する必要もあるのではないかと。(若井)

A これまでも高齢者の集まる場所では、周知、勧奨をしており、今後もIP、公式LINE、広報などでお知らせしていく。(企画振興課長)

Q 岩見沢までの路線バスで、中央バスと同じような運行ではなく、ルート、行先など工夫はできないのか。(我妻)

A 現在のルール上では、岩見沢市との協議の結果や陸運局の絡みで、現行の



ルート以外での運行は難しい。(企画振興課長)

Q 町外への高校生に対する交通費補助が始まるが、項目としては公共交通機関の利用促進ということでの総務費よりも、通学助成であり教育費ではないのか。(我妻)

A 公共交通の維持を目的とした事業であり、町外へ通う大学生なども対象であるため、交通機関を利用したうえでその先の例えばJRも含めて、その定期券について上限1万円までの補助となる。そのため総務費とした。(企画振興課長)

Q 町長が前向きに検討するといった旧月形駅前バス待合所については、どうなっているのか。(東出)

A 財源のこともあり、当面、駐輪場を利用していただく。令和7年度は駅前の公衆トイレの自動ドアの内側に椅子などの設置を検討する。(企画振興課長)

健康・福祉

Q 心の健康対策事業の内容は。(滝口)

A これまでは精神科の医師による「心の相談会」を実施したが、町立病院に精神科が開設されたことで、依頼し実施した。本人に加え、ご家族からの相談もある。高齢者の方の利用が多いようである。(保健福祉課長補佐)

Q 月形町の民生委員は、定数を満たしているのか。(我妻)

A 現在は児童委員も含めて16名で充足しているが、令和7年11月には改選を迎え、新たに任命することに

なる。定数など、次期3年間で検討していきたい。(保健福祉課長)

Q ぬくもり福祉券が令和7年度で最後になり、その財源で除雪費助成事業を実施するのか。(我妻)

A 新たな除雪費助成事業の財源として置き換わるものではない。ぬくもり福祉券のような後継のサービスについては考えていない。(保健福祉課長)

Q 高齢者居宅支援事業の新たな除雪費助成事業の助成額を費用の2分の1、上限2万円とした根拠は。(東出)

A 事業者からの聞き取りで、除雪の相場について約2万円の値上がりがあったとのこと、2万円とした金額は、必要に応じて見直す。(保健福祉課長)

就農支援(親元就農)

Q 新しい就農支援事業とこれまでの事業との違

いは。(我妻)

A 親元で就農し、2年後に家族経営協定を結び、農業経営に積極的に関わること、スムーズに経営移譲につなげるようになる。意識づけも含めた制度である。(農林建設課長補佐)

Q 就農支援事業の対象は。(滝口)

A 農業経営主(親)の3等身以内の親族が対象であり、将来、経営が移譲されるのが前提である。(農林建設課長)

農産振興ほか

Q トマトジュース製造における農産物加工施設整備等更新事業の内容は。(滝口)

A 省力化を目的として、充填機、巻き締め機、浄水器等のオートメーション化を図るものである。(農林建設課長)

Q 町の除雪車は、車両保険に入っていないのか。(若井)

(農林建設課長)



Q 任意保険については、事業組合が被保険者として加入しているが、車両保険については事故件数、修理費などを考えると、保険料のほうが高くなると判断して未加入である。(農林建設課長)

Q 昨年度利用されなかった農産物ブランド推進事業と6次産業化推進事業の補助金について、令和7年度は取り組みなど変わったのか。(我妻)

A 今回のところ変わりはない。活用について周知に努める。(農林建設課長)



博物館ほか

Q 博物館のPR活動はどのように取り組むのか。(若井)

A 雑誌への掲載、ポスター、メディアへの発信、PR展示などが考えられる。(教育委員会主幹)

Q 博物館のPRにSNSやYouTubeの活用は。(我妻)

A 町のホームページ以外には取り組んでいない。その必要性は感じている。(教育委員会主幹)

Q 教職員福利厚生事業での産業医派遣業務の内容は。本町の教職員での、業

務過多による心の病の罹患はあるのか。(東出)

A ストレスチェックを受けた方で、本人の希望で産業医との面談する流れである。(教育次長)

業務の改善にも取り組んでおり、業務過多によるメンタルに問題を抱える教職員は、今のところいない。(教育長)

一般会計 歳入

Q 町税について、令和7年度は6年度と同額の計上であるが、予算編成時、米価の高騰による影響は見込めなかったのか。また、増額補正があるとすればいつくらいになるのか。(東出)

A 予算編成時においては、確定的な情報がなかったので例年どおりの平均値で計上した。(住民課長)

最短でも9月くらいがめどと考える。(住民課長補佐)

Q 入湯税に関わる年間入湯客数の見込みに、保養センターのリニューアルに

よる加味はされなかったのか。(我妻)

A 見込みは、過去3年間の入湯客数の平均である。次回からは、振興公社と協議して出したい。(住民課長)

Q 岩見沢市がゴミ手数料の改定を予定しているというが。(東出)

A 改定の情報は入っている。月形町では、3年ごとの審議会で令和8年度に料金改定等を検討することになる。(住民課長)

Q 保育園留学借家収入で、令和6年度の留学実績は。(松田)

A 25件くらいあり、うち外国人が1件である。外国人については、受け入れ体制に余剰があるときに考えている。(企画振興課長)

Q 分譲地売払収入が1000円となつているが。(我妻)

A 売却目標はあるが、歳入については見込めないものを予算計上できない。(企画振興課長)

介護保険特別会計

Q 3月末でデイサービスを休止する愛光園を利用している方へ支援は。(東出)

A 月形緑苑の通所リハビリへ移行する方が多いようである。(保健福祉課長)

料金は、デイサービスに比べて1000円から2000円程度負担増となる。(高齢者支援係主査)



予算 総括質疑

※総括質疑

予算特別委員会において、各会計の審議の後、すべての会計にまたがって総括的に質問する質疑。

防災の専門官の配置は

西山

Q 防災の専門官の採用の予定はないのか。

A 令和7年度中の採用の予定は考えていない。(町長)

策を 少子化対策に新しい施策を

滝

Q 令和7年度の予算で少子化対策についての、目新しい取組みが見られないように感じるが。

A 今いる子どもたちが、のびのび育って月形を好きになり、月形に戻ってきて、農業や商工業で仕事をすることで、それなりに維持できると思っている。その流れをしつかりつないでいくことが私の役割である。(町長)

情報発信に「デジタル技術の活用を

滝

Q 町民に対して、迅速に正確に情報を伝えるた

めに、また意思決定の途中経過を伝えるために、デジタル技術の活用が必要ではないか。

A 町民への情報伝達の方法を工夫しながら進めたい。(町長)

隊を もっと地域おこし協力隊を

滝

Q 少しでも人口規模を維持する必要があるが、地域おこし協力隊の枠を拡充してはどうか。

A 月形と福祉についての関係を考えれば、福祉の分野における地域おこし協力隊の採用といった可能性があれば取り組んでいきたい。(町長)

定額ハイヤーの申請で

井

Q 定額ハイヤー利用のため

の周知、申請手続きに関して、来庁などに加えて職員が実際に対象者の所に出

向いて行うことも必要ではないか。

A 老人クラブ等での制度の説明はしているし、職員は申請等について、待っているだけではないと思う。(町長)

成と月形高校 公共交通通学交通費助

井

Q 町外通学者への通学交通費助成事業によって月形高校入学者数への影響はどのようになっているのか。

A 町外に夢や希望をもっていくことを支援するというのが、平等性であり、みんなで支えていくことである。月形高校生がいなくなることは考えていない。(町長)

夜の博物館は？ もっとPRを

井

Q 月形博物館の存続や多くの方に来訪していただくように、もっとPRすることが必要と考える。たとえば夜の開館も実施したらPRになると思う。

A ヒントを得た。PRの工夫や仕方について担当ともよく話す。(町長)

職員を 月形町をPRする専任

東

Q 月形町への移住定住に関するPRが不足している。それらを調整、発信する専任の職員の配置が必要と考えるが。

A 配置は考えていないが、町のPR強化体制を今後、検討する。(町長)

信金の空き店舗、跡地は

東

Q メインストリートにある、現在空き店舗となつた北海道信用金庫月形支店の跡地について、信金からの譲渡条件等の打診はあったのか。また町として跡地利用の活用は考えているのか。

A 支店店舗と跡地については、信金から打診はあったが、庁内での協議の結果、今のところ活用計画はないということ、信金に伝えたい。(副町長)

再度、条件提示等があったら、場合によっては再検討したい。(町長)

ホワイトアウトの発生 予測の新システムは

妻

Q この冬、日本気象協会が町内で行った実証実験について、今後どのように進めていくのか。

A アンケートの結果も踏まえてこれから考える。(町長)

ぬくもり福祉券が令和7年度で廃止

我

Q 令和7年度で終了するといったぬくもり福祉券の交付について、完全にやめてしまうのか。

A ぬくもり福祉券は、役目が終わったということで廃止する。新たなものは考えていない。(町長)

学校給食

松

Q これからの学校給食について、どのようにお考えか。

A 自前で給食センターを建てるのか、スクールランチにするのか、または他の市町と合同でやるのか、多方面にわたって検討する。月高への給食の提供は、高校からの申し出があれば検討する。(町長)

3人の議員からの

一般質問

町政を問いました!

西山 富夫 議員

一般質問



災害時における

「道の駅275つきがた」の役割は

《町長》暴風雪などの災害時には、避難所として協力する

議員

道の駅は、1993年に制度が導入された第1ステージは、道路利用者が安心して休憩できる場所を提供するのが目的としていた。そして、その目的が浸透した2013年からは、第2ステージとして、道の駅自体が観光の目的地となり、より人々を引きつける場所となってきた。そして2022年ごろから現在は、第3ステージに入っており、地方創生、環境、観光を加速する拠点として、観光だけでなく防災拠点としての役割も期待されている。

そのような中で、昨年9月にオープンした「道の駅275つきがた」であるが、観光の発信点はもとより、さまざまな役割があると思われる。

月形の道の駅は「防災道の駅」ではないが、災害時、どのような役割を果たすのか伺いたい。

町長

本町の道の駅は、北海道で128番目の道の駅として開業した。

道の駅は、24時間利用できる駐車場やトイレなどの休憩機能、道路や地域の情報を提供する情報発信機能、道の駅を生かした活力ある地域づくりを行う地域連携機能の三つの機能を併せ持つこととしている。併せて特に近年では、防災拠点としての機能を持つことに注目されている。北海道においては、2013年3月にオホーツク管内を襲った暴風雪では、残念なことに死者も発生した。この際には、付近の道の駅では、天気予報から臨時の避難所として、避難者の受け入れをいち早く行い、女満別の道の駅では車150台と、130名の避難者を受け入れた。

本町においても、2021年2月の暴風雪により、本町

に通じる国道275号線、道道岩見沢月形線などが通行止めになり、本町の事業所等で勤務されている方や、偶然本町を訪れた方で帰宅、移動困難者に、当時の月形温泉ホテルを開放し、防災備品の飲料水やアルファ米などを提供した経緯がある。現在は、国からも国道災害時の避難所として協力要請を受けている。ただ、本町の道の駅一帯は、洪水時には、浸水地域になることから、避難所も含めた防災拠点とすることは非常に困難と思われる。

「防災道の駅」とは

都道府県の地域防災計画で、広域的な防災拠点到位置付けられている道の駅について、「防災道の駅」として選定し、防災拠点としての役割を果たすための重点的な支援を実施するもの。

松田 順一 議員

月形高校生への支援策として、 学校給食の提供は

一般質問



《教育長》具体的にになれば、

実現可能な方策を検討する

議員

月形高校の出願状況は、募集人員40名に対して、4名の推薦があり、12名の出願とともに、総人数は16名となった。今年度も20名に達せず、月形高校の存続は厳しい状況が続いていくことになった。

令和5年から月形町と月形高校が共に「地域みらい留学」事業に取り組んでいたが、今

年度1名の留学生在が確保された。今後、留学生や町内外から月形高校に入学する生徒への支援策として、学校給食を提供することが可能かどうか伺いたい。

教育長

児童生徒数が減少してセンターの供給能力において、食数面から月形高校に学校給食を提供することは可能である。ただし、給食の分量について、高校生には中学生よりも分量が多くなることになれば、作業量の関係で食材の準備や調理に時間がかかり、現在の人員や体制では難しくなる。

次に高校側の課題として、小中学校は搬入口があるが、道立高校にはないので、給食の搬出入の方法を考える必要がある。給食費について、保護者負担の同意が得られるか、徴収義務を高校が行えるかなどの課題がある。最後に、給食センターの施設設備の老朽化が進んでいる中で、学校給食をどう維持していくかという課題がある。学校給食の持続可能なあり方について多面的に検討していかなければならず、仮に月形高校へ給食

を提供することになっても持続可能かということに不透明な部分があり、高校への学校給食の提供が具体的になった時点で実現可能な方策を速やかに検討する。

議員

新十津川農業高校でスターから給食を提供されているとのことなので、課題もクリアできると思うが、教育長が言われた学校給食センターの老朽化をどうするかという問題を解決していかざる得ない状況であることは間違いないと思う。ただ、国が公立私立を問わず、全世帯に就学支援金を年11万8800円支給する費用、1064億円が令和7年度予算案に計上された。今後、地域の公立高校の存続がより大変になるので、月形高校へ学校給食の導入を検討していただきたい。

教育長

私も以前、月形中学校の校長だったとき、月形高校に学校給食の導入を、という話しを当時の教育長と話したことがある。決してやらないというわけではなく、検討していただき、私どもも検討する。

東出 善幸 議員

一般質問



新年度からの町立病院の新体制は

《町長》常勤医師3人で刑務所内診療所業務も

議員

令和6年第2回定例会において、町長は「常勤医師2名体制で病院運営に努める」と答弁された。しかし、令和7年度からは月形刑務所内診療所の診療業務が始まり、新たに1名の医師が着任することになり、町政執行方針では常勤医師3名体制が示された。医師の増員により、診療の充実や医療スタッフの負担軽減が期待される。一時は医師も充足ができそうもななく、診療所への移行も検討されたが、努力の結果、医師の充足度を示す医師偏在指標によっても、充足していることがわかる。

町長

令和7年度から常勤医師3名体制とし、内科常勤医2名が院内に常駐する

体制で、外来・入院診療、検査を行う計画であり、月形刑務所内診療所の業務も開始する。整形外科については、令和6年11月から非常勤医師の都合で診療時間が短縮されていたが、令和7年4月から水曜日について1日診療に戻る。また、検査体制を強化するため、会計年度任用職員の検査技師を採用し、従来派遣技師でしか対応できなかったエコー検査を随時実施できるようになる。これにより、看護師の負担軽減にもつながる。刑務所診療所では、常勤医師1名と非常勤医師が交代で診療を週4日体制で行うことになる。長時間の診療が必要のため、医師の負担軽減を考慮し、適切な配置で実施する。

議員

今回の医師や医療スタッフの増員によって、訪問看護や人間ドックの導入について検討できないか。また、町長は定期的な職員との懇談会を実施する考えはあるか。

病院事務長

令和6年度に訪問看護の研修は実施した。しかし、令和7年度は刑務所診療所の運営が優先事項であり、職員配置の調整が必要のため、訪問看護や人間ドックについては慎重に検討したい。

町長

懇談に関しては、現場の職員と対話を密にし、特に院長と連携を図りながら、診療体制を考慮した上で機会を持ちたい。

町内スナップ
すくすく伸びてね!

月形の子どもたち

まんまる広場



お母さんといっしょだよ!



運動教室

回せ! 走れ! 追いかける!

商工業団体

〈2月7日〉

懇談会を開催しました

月形商工会

- ・サービス業部会
- ・工業部会
- ・商業部会
- ・青年部

月形建設業協会

主な意見・要望（抜粋）

◎義務教育学校の建設と財政問題

現在、義務教育学校（小中一貫校）の建設計画が進められていますが、財政負担の大きさが課題となっており、参加者からは次のような意見がありました。

- 長期的な財政計画を策定し、負担を分散させるべき
- 国や道の補助金を最大限活用し、町の負担を軽減する方法を検討してほしい
- 町民への説明をさらに充実させ、建設の必要性を丁寧に伝えるべき

◎人口減少と移住・定住対策

本町でも人口減少が進行し、若年層の流出が深刻な問題となっており、移住・定住を促進するため、以下の対策について意見が交わされました。

- 町内に移住定住サポートチームを設置し、移住希望者を支援すべき
- 地域おこし協力隊の活用を拡大し、新たな事業や雇用を生み出す仕組みを整えるべき
- 空き家の利活用を進め、「住居＋仕事」セットでの移住プランを検討してほしい

◎行政の情報開示の透明性

町の重要な決定について、町民の皆様からは、透明性をもって情報を提供することが求められています。

- 今回の懇談会では、次のような意見が挙がりました。政策の決定前に、町民へ情報を公開し、意見を募る機会を増やすべき
- 議会や町のSNS・広報紙を活用し、情報発信を強化してほしい
- 女性の意見を町政に反映できる仕組みを作るべき

●まとめ

義務教育学校の建設と財政問題、人口減少対策、情報開示の透明性について活発な意見交換が行われました。義務教育学校の建設では、財政負担への心配とともに、大きな事業への期待もあり、また議会からの情報発信の強化については、早々に取り組む課題であると思われます。



議会からの開催の思いと謝辞

月形町議会では、町民の皆様の声を聴くために、懇談会を開催しています。令和6年度は、商工業関係団体、農業関係団体とそれぞれ懇談会を開催いたしました。

今年は団体との

農業団体

〈2月25日〉

- 農協青年部
- 花き生産組合
- 蔬菜生産組合
- ミニトマト生産組合

- 和牛振興協議会
- 麦大豆生産組合
- 農民連盟
- 月形土地改良区

主な意見・要望（抜粋）

- ◎ **人手不足・担い手確保**
 - パート・アルバイトが集まりづらく、人手不足が深刻化している
 - 特に集出荷施設や選別作業、補助作業などに必要な人材確保の仕組みが必要である
 - 新規就農者への就農後の支援や、雇用型の受け入れ制度整備も必要ではないか
 - 組合員の高齢化が進み、後継者が少なく、将来の営農維持に不安がある
 - 離農した農家の設備や、農地を第三者が承継できるような制度も必要
- ◎ **ICT・スマート農業の推進**
 - 自動操舵や可変施肥などの農機利用に必要な電波環境の整備の必要がある
 - 山間部や携帯電話の圏外エリアでは、電波が届かず作業に支障が出るケースもある
- ◎ **基盤整備・改良区施設の維持**
 - 水路や施設の老朽化が進み、改修が追いつかない状況である
 - 改良区外の農家も支援できるように、「土地改良センター方式」の復活を求める声もある
- ◎ **和牛・畜産の課題**
 - 飼料代の高騰と牛の相場下落により、経営が厳しい状況
 - 繁殖農家は国の補助制度の対象外で、独自の支援が必要である
 - 堆肥の処理や活用方法についても対策が必要ではないか

今後も、町が発展していけるように、町民の皆様との意見交換の場を大切にしていきたいと考えております。

懇談会での内容をすべて掲載できませんでしたが、ほかに多くの貴重なご意見をいただきました。皆様のご意見を参考に、議会として引き続き議論を進めてまいります。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



●まとめ

町の基幹産業である農業に関する課題や意見を伺うため、農業関係の各団体と懇談会を開催しました。特に「人手不足・担い手確保」への対策を求める声が切実でした。ほかにも、日頃感じている悩みや今後への要望など、さまざまな立場から率直な意見が交わされ、非常に有意義な場となりました。

人口減少が進むなかで、関係者の皆様と一緒に、農業について発展的に考えてまいります。

第7回

舞い降りて月形
住んで、見て、
感じた月形は！

「ものづくりと 絵のある暮らし」

山口さんが見つけた月形の魅力

株式会社 平塚建具製作所 やまぐち みつき 山口 美月さん



今回は、この企画で初の道外出身、岩手県生まれで、平塚建具製作所に勤務して4年目の山口美月さんです。

Q ご出身や経歴を簡単に教えてください。

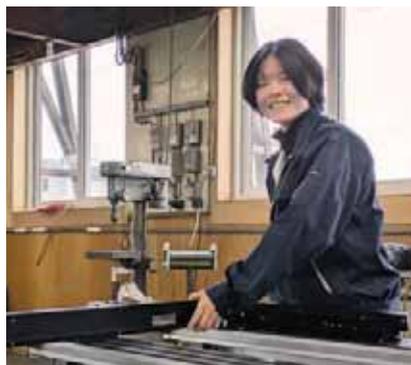
A 生まれは岩手県滝沢市で、高校まで岩手に住んでいて、部活では陶芸をやっていました。大学は北海道教育大学岩見沢校で、美術の中でも家具製作を学びました。

Q 高校時代に陶芸、大学で木工…ずっとものづくりを？

A 音楽も好きだったので、絵のほうが得意だと気づいて、高校からは美術方面に進みました。就職は、家具の営業も考えましたが、ものづくりの道に進みました。

Q 現在はどんなお仕事をされていますか？

A 主にオーダーメイドのフロントサッシ（施設の入り口など）の組み立てを担当しています。一つひとつ形が違つので、そのつど工夫が



必要で面白いです。

Q 今後の目標は？

A 将来的にはより難しい加工を担当させてもらえるようになりたいです！！

Q 月形に住んでみての印象は？

A 車があるので不便は感じませんが、コンビニ以外の買い物はやはり遠く感じますね。でも職場の同僚と一緒に出かけたりすることもあり、それが人との距離を縮めるきっかけにもなりました。

Q 趣味や休日の過ごし方は？

A 風景や人物の絵を描くこと

「インタビューを終えて」

手を動かして何かを生み出す仕事に魅力を感じながら、日々技術を磨いている姿が印象的でした。「月形は意外と札幌に近い」とも口にされた山口さんの言葉のように、町の良さを再発見しながら、より住みやすく、訪れたい町づくりを進めていきたいですね。

が好きで、ワーキングスペースの「月形ラボ」を利用して創作活動をしています。樺戸博物館前の空の広がった風景が印象的です。散歩も好きで、よく歩いています。

Q 今後、月形にあったらいいと思うものは？

A ドラッグストアや、気軽に立ち寄れるイベントがあったらいいと思います。ビアガーデンとか（笑）

公共交通が増えると、観光に来る人も増えるのかな？と思います。

Q 最後に、町や議会へのメッセージがあれば。

A 道の駅に新しいグッズが並んだりしていて、変わってきているのを感じます。博物館は、もっとゴールデンカムイに便乗してもいいかも！（笑）

これからも月形の魅力をどんどん発信してほしいです。私も応援しています。

広報特別委員会

委員長 松田 順一
副委員長 我妻 耕二
委員 若井 昭二
委員 滝口 伸

今号では、スナップとして「まんまる広場」と「運動教室」取材させていただきました。新年度のスタートと人生のスタート…。子どもたちを見ていると、明るく幸せで平和な未来であってほしい気持ちが急に湧き出てきて、そんな自分にビックリしてしまいました。取材、ありがとうございました。（我妻）

〒061-0592 北海道樺戸郡月形町1219番地
TEL (0126) 53-2321 FAX (0126) 53-4373
E-mail : gikai@town.tsukigata.hokkaido.jp